

平成 28 年（2016 年）12 月 27 日

NII 准教授の山岸順一が日本学術振興会賞を受賞 音声合成の分野で革新的な技術を開発、社会応用でも成果

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所（NII、所長：喜連川 優、東京都千代田区）コンテンツ科学研究系准教授の山岸順一が、独立行政法人 日本学術振興会から本日 12 月 27 日に発表された「第 13 回（平成 28 年度）日本学術振興会賞」を受賞しました。山岸准教授の受賞に関する情報は以下の通りです。山岸准教授のプロフィールにつきましては、別紙をご参照下さい。

氏 名： 山岸 順一（やまぎし・じゅんいち）
年 齢： 37
職 名： 国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 准教授
受賞理由： 「統計的音声合成における話者適応とその応用」

音声合成技術は、文章から音声を自動合成する技術であり、我々の生活の様々な場面で使われている。従来の音声合成技術の大きな問題点の一つは、自然な合成音声を得るために必要となる音声データの量にあった。具体的には、数十～数百時間もの音声データがなければ、優れた合成音声を作成することができなかった。

山岸准教授は、この問題に対して、学習済み隠れマルコフモデルを非線形変換により目標話者に適応させる、話者適応と呼ばれる統計的音声合成分野の新しい技術を開発し、必要な音声データの量を数分程度まで減少させることに成功した。この技術は様々な応用分野の開拓に繋がった。例えば、音声障害者の障害により不明瞭になった音声から、本人用の合成音声を作ることにも成功している。開発した技術はオープンソースソフトウェアとして国内外で広く利用されている。

山岸准教授は、音声合成の分野において革新をもたらす技術を開発するとともに、その社会応用でも成果を挙げ、科学技術・学術研究を通して社会的にもインパクトのある貢献をしたものである。

コメント： 「日本学術振興会賞という大変栄誉ある賞を頂くことができ、光栄に思っています。お世話になった皆様に厚く御礼申し上げます。音声合成分野はここ数年大きく進展しています。人間とほぼ同等の品質の音声を合成することがあと数年で可能になると予測され、人工知能があたかも人間のように魅了的にしゃべり出すのも間近だと思えます。この様な激動の分野において、多少とはいえ貢献ができたことは大変幸運でした。本研究を進めるにあたり、国立情報学研究所、エジンバラ大学、名古屋工業大学、東京工業大学の関係者をはじめ様々な方々と活発な議論をさせていただき、誠に有益なご意見を賜りました。今回の受賞を励みに、音声情報処理技術のさらなる発展に少しでも貢献できるよう引き続き研究に邁進していく所存です」

以上

〈メディアの皆様からのお問い合わせ先〉

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所

総務部企画課 広報チーム

TEL:03-4212-2164 E-mail : media@nii.ac.jp